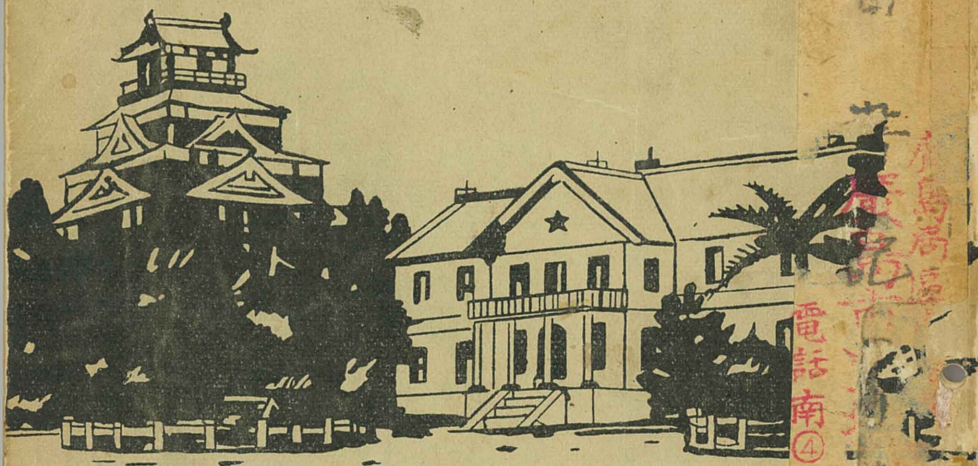


4501-22

1

# 新市勢一覽



第22回 昭和14年

電話南④〇一〇一・一一一



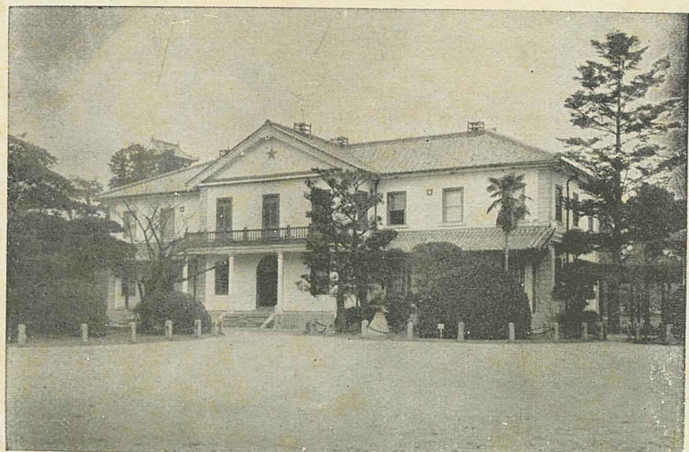
分類	史
整理番 番	1731
保管所	0-4

市  
勢  
一  
斑

廣  
島  
市







聖蹟 明治二十八年戰役廣島大本營

史

731

0-4



## 目次

沿	革	.....	一
位	置及面積	.....	三
地	勢	.....	三
凡	例	.....	四
土	地	.....	五
建	物棟數及延面積	.....	六
氣	象	.....	六
戶	口	.....	六
在	留外國人	.....	九
產	業	.....	九
主	要生產物	.....	一四〇次
廣	島港輸出入品種別	.....	一四〇次
輸	入	.....	一四〇次
輸	出	.....	一四〇次
勞	働	.....	一五



商	業	一
貿	易	九
教	育	三
社	寺	三
社	會	三
保	健	六
警	察	六
水	道	三
交	通	三
及	信	三
財	政	三
負	擔	三
行	政	三
市	內	三
諸	官	三
學	校	三
公	園	三
史	蹟	三
名	勝	三
官	公	三
衙	其	三
他		三

## 廣島市勢一

斑廣島局區內廣島市役所

廣島市史編修委員會

電話南④〇二五二

## 沿革

全國第七位の大都市であり日本の軍都として世界に名を知られて居る廣島の地も往昔は漂渺たる海灣なりしが、太田川の流砂により三角洲を造成し其處に寒村五箇莊を生ぜり。然るに今より大凡三百年前の天正十七年毛利輝元地勢を卜して此の地に築城城下に構ふるやさしもの荒地も一朝にして昔日の俤を一新し地名も廣島と呼稱、今日の開基をなす。後藩政淺野家に移り治蹟二百五十年間逐年荒地を開墾して宅地を造り或は耕地を築き銳意町勢の興隆を策せられつゝありしも、維新の變革に會し明治二年六月藩籍奉還のことあるや舊藩主を以て藩知事に任ぜらる。當時本市の行政は市政局幹事に依りて管掌せられしも同年十二月市政局に市尹を置き藩廳に直屬して市全般の事務を總轄するに至つたが、明治四年七月廢藩置縣となるに及び廣島縣第一大區となり區長及び副區長本市の行政を執行せり。而して同十一年十一月郡區制を施行せらるゝや本市は廣島區と稱し區長以下吏員を置き縣廳に隸屬して區制を執行し更に明治二十二年四月一日を以て市制を實施廣島市と改稱市役所を中島新町に置き市會市參事會及び市長其他の諸機關を具へ市政百般の事務を執行することゝなれり。



其の後明治七年十月元宇品町昭和四年四月隣接七箇町村の合併を行ひ、總戸數八萬八千七百餘戸三十六萬餘の人口を有する名實共に中國一大都市としての態勢を整ふるに至つた。

明治十三年四月千田貞曉氏廣島縣令として本縣に赴任するや太田川の七派川より流出する土砂の爲め水深次第に淺くなり、干潮時には航路全く杜絶して廣島區内に出入する船の不便尠なからぬものあるを洞察して心中密かに築港のことを決意する處あり、更に同縣令は赴任直後縣下を巡視し山陽、山陰の兩道を結ぶ幹線道路の必要を認め直ちに立案二十四萬圓の經費（内國庫補助八萬圓）を以て着工し現在廣島市を中心として島根縣に通ずる三筋の脈道を完成、山陰、山陽兩道の交通運輸による財政的發展の開基を作り絶大なる貢獻をなし更に海上運輸に至りては明治十四年八月諸方面の一大反對を抑切つて宇品築港の計畫を樹立し銳意之れが完成に邁進、數年間を血涙に綴りて漸く現在の宇品港を竣成せり。此の空前の一大事業による海陸運輸交通の劃期的機構は擧げて廣島區勢の財政的方面に一大躍進を齎らし商工業の發達並に學藝の勃興に有ゆる新機軸をなして逐年興隆の途上を辿り遂に明治二十二年四月市制の實施を見るに至り廣島市と改稱せるものなり。而して明治二十七八年の日清戰役三十七八年の日露戰役、更に北清、日獨、近くは滿洲、上海事變及び今次支那事變に至る數次の征戰に皇軍輸送の要衝として赫々たる功績を残する至れる宇品港は唯に廣島市の財政的發展の主要價値の上よりのみならず我が國政上重要な使命を有するものにして國史上永遠に其の事蹟を誇るに足るも

のあり。廣島市が千田縣令の慧眼により斯く絶大なる福祉の門扉を開かれて躍進廣島の第一期を完成し逐次行政諸機關の充實を圖ること四十餘年其の絶えざる發展の行程は遂に近接七ヶ町村の合併を促進し昭和四年其の實現を見るに至りて茲に躍進廣島の第二期時代の基礎を確立せり。而して此の偉大なる地領の膨脹に伴ひ必然地勢整理の必要を生じ太田川の一大改修並に廣島港灣修築計畫共に實現されて著々其の工を進められつゝあり、新に工業港修築計畫ある等本市の行政並に財政の各方面に互り一大飛躍を期待し得べく其の洋々たる先途こそ正しく多幸なる福祉を吾が廣島市民に約束し更に國政の上に一大貢獻を爲し得るであらう事を斷言するに吝かならず。

## 位置 及 面積

東經百三十二度二十五分十六秒乃至二十九分五十六秒、北緯三十四度二十分乃至二十四分二十七秒の間に所在し、東西千二百九十一米、南北八千六百七十九米にして面積六千九百八十八萬四百二十四平方米（四方里五分三厘餘）あり。

## 地 勢

東北西の三方は山脈に圍繞せられ、南一帯は海に面す。市内は概ね北より南へ緩斜し河川又南流



四  
す。市の北方十六里中國山脈中に其の源を發せる太田川は市の北端に至りて京橋、猿猴、元安、天満  
福島、山手、本川の七流となりて廣島灣に注ぐ。市街は平坦なるも東方に比治山、城山、東北方に尾  
長山、北方に二葉山、西方に茶臼山、鬼ヶ城山、西南方に江波山、丸子山、皿山あり。廣島灣頭には  
宇品島、東に金輪島、南に似島、辨天島あり。地質は砂土にして一般に花崗岩に屬す。

### 凡 例

本書は昭和十一年の事實を主として本市市勢の概要を輯録したるものなり。

土		積 面	
官有地	民有地	廣 面	周 面
免租及無租地	民有有租地	廣 積	周 積
民有免租地	民有有租地	廣 積	周 積
地 總	地 積	地 積	地 積
二、五二反	一、八〇七反	三、六三反	四、六八反
賃貸價格	賃貸價格	賃貸價格	賃貸價格
一	一	一	一
埋立免租	荒地免租	荒地免租	荒地免租
地 積	地 積	地 積	地 積
一、八〇七反	三、六三反	四、六八反	四、六八反
賃貸價格	賃貸價格	賃貸價格	賃貸價格
一	一	一	一
耕地整理埋立免租	耕地整理埋立免租	耕地整理埋立免租	耕地整理埋立免租
地 積	地 積	地 積	地 積
四、六八反	四、六八反	四、六八反	四、六八反
賃貸價格	賃貸價格	賃貸價格	賃貸價格
一	一	一	一
東西	南北	東西	南北
六、八八〇、四二四平方米	六、八八〇、四二四平方米	六、八八〇、四二四平方米	六、八八〇、四二四平方米
一、一〇七、七七一平方米	一、一〇七、七七一平方米	一、一〇七、七七一平方米	一、一〇七、七七一平方米
九、〇〇一平方米	九、〇〇一平方米	九、〇〇一平方米	九、〇〇一平方米
一〇、〇〇〇平方米	一〇、〇〇〇平方米	一〇、〇〇〇平方米	一〇、〇〇〇平方米
三、八八四反	三、八八四反	三、八八四反	三、八八四反

地		種 別		面 積	
民	有	無	租	地	地
公立學校敷地	八、九四反	公會堂敷地	七反	火葬場敷地	六
市役所敷地	三	鄉村社地	五、二	溜池	二、三
農事試驗場	一、三	用水路	二、五	鐵道用地	二、八
墳墓	四、六	井溝	九	保安林	四、九六〇
堤塘敷地	一、〇	道路	一、〇六	警察署敷地	八
軌道用地	六、六	町村役場敷地	一、五	病院敷地	三、六
公會園地	三、六	工業試驗場敷地	二	巡查教習所敷地	一
縣會議事堂	六	驅梅院敷地	二	測候所敷地	一、二
傳染病院敷地	四、四	物揚場敷地	一、三	屠場敷地	八
繩守屋敷地	二	家畜市場敷地	四	公設市場敷地	一
物產陳列館敷地	二	學園敷地	二、一	土木出張所敷地	二
灌漑用唧筒	二	縣營變電所敷地	一	米穀倉庫敷地	二、四
据置敷地	二	託兒所敷地	一		
圖書館敷地	二	貯金局敷地	四		
隔離病舍敷地	二	縣廳敷地	四		
飛行場敷地	二、七	市營住宅敷地	一、三	計	七、五四九
私立學校敷地					



















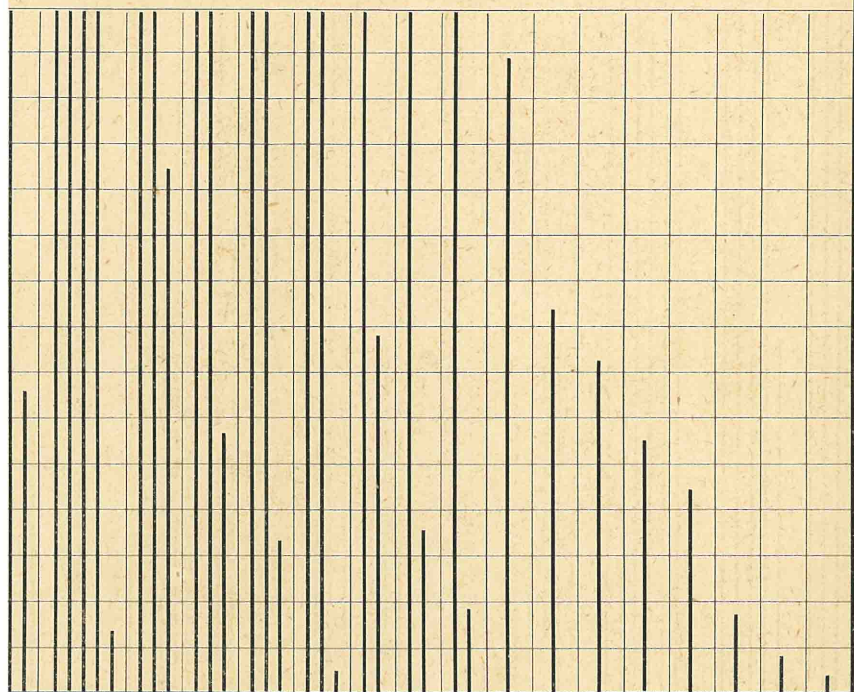




輸 港 島 廣

出

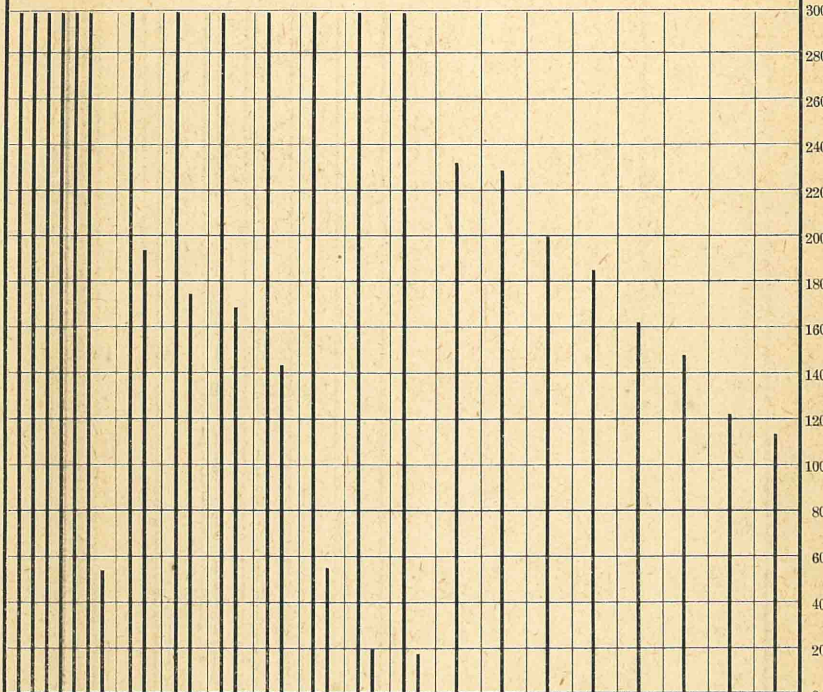
輸



0 20 40 60 80 100 120 140 160 180 200 220 240 260 280 300

植 物 類  
肥 料 及 飼 料  
陶 磁 器 類 硝 子 品  
穀 物 及 種 子  
皮 毛 骨 角 牙 類 及  
同 製 履 物 及 同 附 屬 品  
衣 類 履 物 及 同 附 屬 品  
礦 物 及 同 製 品  
車 輻 時 計 機 械 類  
製 紙 原 料 紙 及 同 製 品  
藥 品 及 染 料 塗 料  
油 脂 及 蠟  
糸 縷 繩 索 及 同 材 料  
金 屬 及 同 製 品  
布 帛 及 同 製 品  
雜 品  
飲 食 物 及 煙 草

物 產 生 要 主



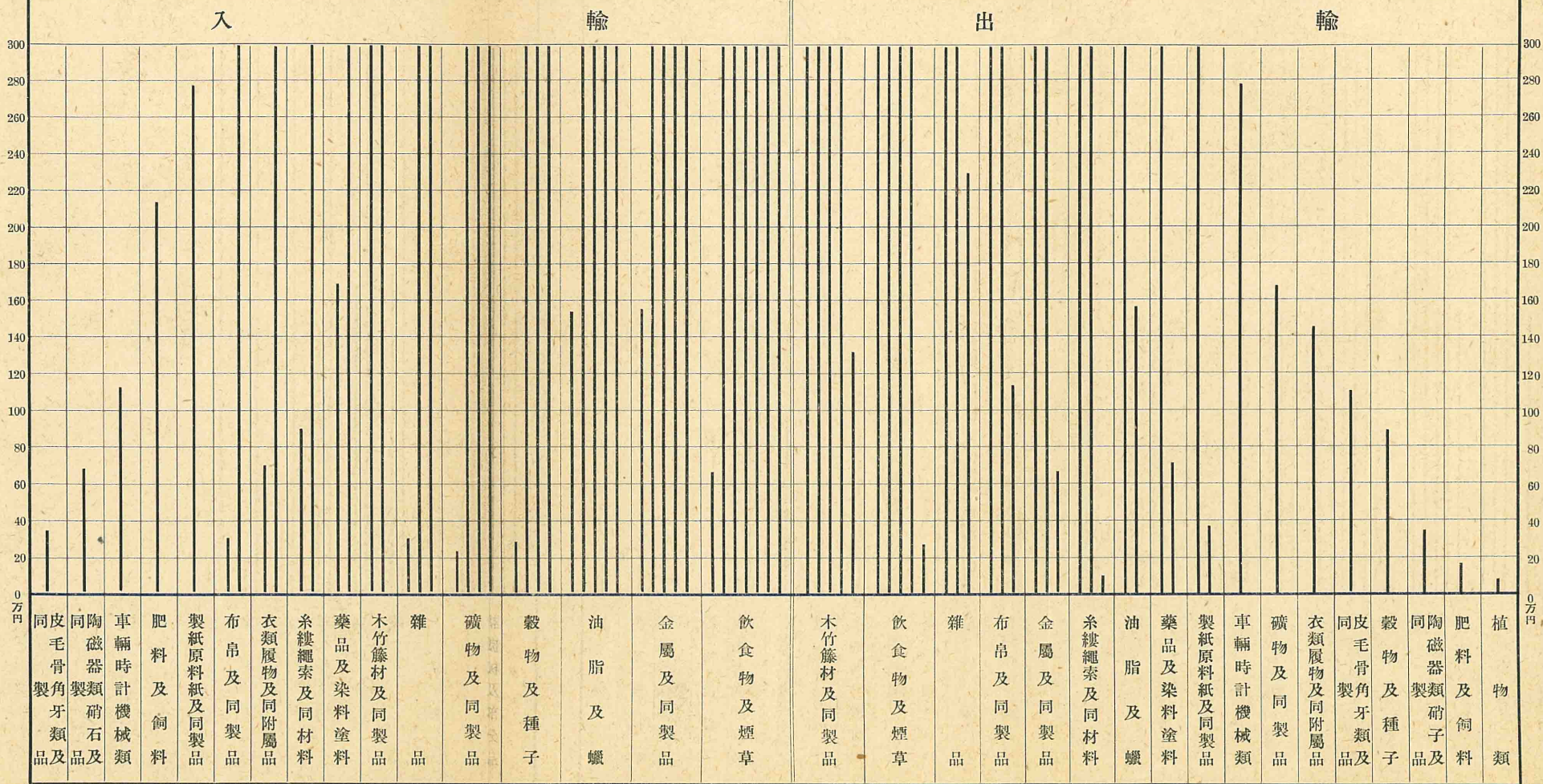
0 20 40 60 80 100 120 140 160 180 200 220 240 260 280 300

製 針  
賣 藥  
グ リ  
小 幅 捺 染  
菓 子  
製 綿  
防 腐 木 材  
牛 肉  
指 物  
綿 糸 紡 績  
洋 服  
護 謨 製 品  
印 刷 及 製 品  
罐 詰  
人 造 絹 糸  
諸 機 械 及 部 分 品

0 20 40 60 80 100 120 140 160 180 200 220 240 260 280 300



廣 島 港 輸 出 入 品 種 別 表





[illegible]



業 商		總 數		勞 務	
社 會 諸		總 數		勞 務 爭 議 件 數 及 人 員	
工 業	運 輸 業	商 業	礦 業	爭 議 件 數	勞 務 爭 議 件 數 及 人 員
七四	一六	二	二	男	男
九三、四〇〇	〇三、〇〇〇	一五五、一四六、八五〇	八三〇、〇〇〇	女	女
六三六、八五〇	八八、二五〇	三三、五、三六二	八三〇、〇〇〇	計 員	計 員
六五七、六〇	四〇、〇五八	一五、八八、〇三六	九〇〇	件 數	件 數
二八二、七五、一三三	一六	二四、四、八三九、六〇	二	男	男
四、五、二一〇	一〇、九〇〇	一五、一七四、四	一〇、九〇〇	女	女
五三、一三、一六二	一	七六、三八、五〇〇	一	計 員	計 員
一、二六、二九四	一	二五、三八、五〇〇	一	人	人

[illegible]







貿易		移出輸入貨物品種別表			
(昭和二十年)		(昭和二十年)			
種別	總計	移出		移入	
		數量	價額	數量	價額
植物及種子類		三、四七	三〇、五五六	一九	一、六三四
穀物及煙草		四、八九三	七三九、一〇八	五、四九元	九、二八一、三八九
飲食物及煙草		八、一三八	一二、三五四、五二	一五、一九二	一八、六九七、四二
皮毛骨角牙類及同製品		四、五〇三	一、〇九三、六六〇	三二	三、四四、四六
油脂及蠟		三、七六九	四、五五九、〇〇三	一〇五、〇三	一三、五三三、三六二
藥品及染料塗料		一三、四六六	三、七三、四四六	二五、七七五	四、七九七、七〇
糸纒繩索及同材料		一三、一九四	六、〇六六、三七七	五、〇六八	三、八八〇、四四
布帛及同製品		九、三〇九	七、一四六、一四七	四、六七三	三、二六、七二七
衣類履物及同附屬品		四、六〇一	一、五二八、一〇六	五、三九	三、七三三、三二五
製紙原料紙及同製品		二九、七七八	三、三六、三四七	一三、八六六	二、七三三、八六三
礦物及同製品		四、七二〇	一、六九一、五五六	七、〇一七	九、二二、三四六
金屬及同製品		五、二六三	六、六二八、二二三	七、四三六	一三、五五、八七三
陶磁器類硝子及同製品		一九、四八七	三、六六、〇九七	二〇、六三	六、三二七、六六〇
車輛時計機械類		五、一六九	二、七三、九〇〇	二、三二六	一、一五八、七七
肥料及飼料		一、六七三	一、二八、八八八	三七、三五	二、一五八、四九〇
木竹藤材及同製品		三、六四三	一、三、四二、六四四	二〇、七六	六、〇〇一、八九三
雜品		三七、一七八	八、二七、五三六	一三、三五	六、三〇三、九二五
總計		七四三、六〇七	七三、六六、四〇九	一、六二五、九四三	九、一六四、一〇二

貿易		移出輸入貨物品種別表			
(昭和二十年)		(昭和二十年)			
種別	總計	移出		移入	
		數量	價額	數量	價額
植物、動物(生活力ヲ有スルモノ)		四、九三三	四、九三三		
穀物穀粉澱粉及種子		二、三三	一、八六八、二九		四、四、〇八六
飲食物及煙草		八三三	一二、七六七		六、四、二五〇
皮毛骨角齒牙甲殼類及同製品		一、四二六	一、八二、六六八		八、六、九一九
油脂蠟及同製品		三、七〇一	四、八、八三		五、一五
藥材化學製藥其ノ調合品及爆發藥		一、五、三三〇	一、五、三三〇		七、一一四
染料顏料及充填料		三、三〇一	三、三〇一		九、九五
絲纒繩索及同材料		一、五、三三〇	一、五、三三〇		一、四七、四七六
布帛及同製品		二、二、五三	二、二、五三		一、五、四〇五
衣類及同附屬品		一、五、三三〇	一、五、三三〇		二、〇、四四〇
紙パルプ及紙製品		一、五、三三〇	一、五、三三〇		二、〇、四四〇
礦物及同製品		一、五、三三〇	一、五、三三〇		二、〇、四四〇
陶磁器及硝子製品		一、五、三三〇	一、五、三三〇		二、〇、四四〇
金屬及同製品		一、五、三三〇	一、五、三三〇		二、〇、四四〇
金銀及同製品		一、五、三三〇	一、五、三三〇		二、〇、四四〇
時計學術器械砲船車及機械類		一、五、三三〇	一、五、三三〇		二、〇、四四〇
雜品		三、七一九、六三三	三、七一九、六三三		五、一六、二二五
總計		三、七一九、六三三	三、七一九、六三三		五、一六、二二五



[illegible]

育										教									
校學諸				園稚幼 (立私)		校學小													
中		種		園		教員						童兒		級學		尋常		高等	
等	學	別	學	數	保	計	代	準	專	本	種	男	女	男	女	官縣立	市立	私立	官縣立
校	校	學	校	數	員	數	用	正	正	別	市	立	私	立	立	市	立	立	市
二	七	二	七	二	五	六	九	一	二	五	六	三	四	五	六	一	六	六	一
五	八	三	五	五	二	二	四	六	二	三	男	女	男	女	男	四	六	一	四
五	四	五	四	五	一	一	九	一	一	八	男	女	男	女	男	一	一	一	一
九	一	九	〇	九	〇	九	三	一	一	八	計	計	計	計	計	三	四	三	三



社 會 事 業										寺 社									
窮 費 市					療 施 費 市					人 病 旅 行					道 神				
老 廢	種 別	總 數	男	女	男	女	男	女	男	男	女	男	女	男	男	女	男	女	男
三	元	三	八	一	五	〇	三	四	一	三	四	一	二	三	六	七	一	二	三
八	元	二	一	一	〇	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	五	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	元	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	元	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	元	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	元	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	元	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	元	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

育 教									
館 書 圖					團 年 青				
館	書	圖	閱	覽	團	年	青	校	學
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五
二	七	五	八	四	八	一	九	七	五



[illegible][illegible]











政		財		種別	豫算 (昭和十一年度)	決算 昭和十一年度	額 昭和十二年度
市	市	市	市	市	二、二七九、三三四	二、三九五、一五八	二、二五八、八三五
財産ヨリ生ズル收入	市	市	市	市	五三、五五三	四一、五六五	四五、七九五
使用料手数料	市	市	市	市	一、〇〇〇、三九九	一、〇四六、五九三	九八八、七四四
補助金	市	市	市	市	六三、六〇二	九八、〇八九	五五、二七四
交付金	市	市	市	市	一一一、二八三	一三四、八五〇	一二九、八二〇
國庫下渡金	市	市	市	市	一七三、六五三	一七四、八三九	一七三、六五三
市債	市	市	市	市	一、三二二、〇〇〇	一、三四二、五六九	一、八五六、三〇〇
其他	市	市	市	市	三八六、六八五	一、八三〇、一一八	九九六、〇七六
歳入計	市	市	市	市	五、五四九、四〇七	七、〇六三、七八〇	六、五〇四、五七七
役所費	市	市	市	市	六〇六、四七三	六二八、二〇八	六二三、二九九
會議費	市	市	市	市	二二、〇四四	二一、四八八	二〇、二〇四
教育費	市	市	市	市	一、五六八、九九六	一、三八三、七三三	一、三四六、六四三
土木費	市	市	市	市	三六二、〇四九	二六二、四八二	二五一、二九九
社會事業費	市	市	市	市	六〇、八五六	二六一、二六五	一〇一、三三三
警備費	市	市	市	市	七四、〇七五	六七、九七四	七三、〇五五

擔		負		歲出計	其公產衛 ／債業生 他費費費
稅	國	種別	金額		
織物消費稅	10,033	地租稅	233,678 円	3,777 円	0,664 円
取引所稅	485,154	所得稅	21,559,933	25,577	1,633
砂糖消費稅	843,963	相續稅	170,293	1,011	0,503
酒精及酒精類飲料稅	129	資本利子稅	101,256	1,210	0,330
酒造稅	236,830	營業收益稅	693,462	8,333	2,000
				2,699	0,664
				—	—
				10,000	2,441
				5,776	1,441
				0,011	—







市內諸官公署

市內諸官公署							
管轄	名	稱	所在地	管轄	名	稱	所在地
內務省	大阪土木出張所	太田川改修事務所	西觀音町二丁目	司法省	廣島刑務所	廣島	吉島町
同	廣島港修築事務所	同	同	同	廣島保護觀察所	廣島	宇品町
同	宇品出張所	宇品町	同	同	岡山米穀事務所	廣島出張所	南蟹屋町
大藏省	廣島地方專賣局	地實町	皆實町	同	大阪營林局	廣島營林署	八丁堀
同	同	段原倉庫	大畑町	同	廣島遞信局	廣島	基町
同	廣島稅務監督局	八丁堀	同	同	廣島貯金支局	廣島	千田町
同	廣島稅務署	同	同	同	電氣試驗所	廣島出張所	三篠本町
同	神戶稅關廣島出張所	宇品町	同	同	廣島郵便局	廣島	細工町
同	大藏省預金部廣島支部	八丁堀	同	同	宇品郵便局	宇品町	宇品町
司法省	廣島控訴院	小町	同	同	廣島驛前郵便局	廣島	松原町
同	廣島地方裁判所	三川町	同	同	廣島中央放送局	廣島	上流川町
同	廣島區裁判所	同	同	同	廣島鐵道郵便局	廣島	宇品町
同	廣島供託局	同	同	同	廣島電話局	廣島	下中町

[illegible]







## 公園

比治山公園は純然たる山林公園で其の山容が恰も虎の臥して居る如き形をして居るので臥虎山の別稱がある、其の面積十六萬四千餘平方米にして南北に蜿蜒し、満山老樹蒼鬱として其の風景最も閑雅である、山嶺は眺望浩潤にして市街を雙眸に収めることが出来る。

南方遙に廣島灣を望み近く宇品、江波の風物を指摘することが出来る、山の北端は之を開いて平地とし坦々數千項、其の一部に舊御便殿及大正天皇御即位大典記念館を建設し又山上北西に櫻花を植ゑ陽春開花の候には花を賞し銷夏林間の涼風に一日の汗を忘れ、紅葉秋月を詠むの候には杖を此の地に曳く者跡を絶たず、満山銀を敷き連樹雪に惱むの風情に至つては蓋し他に其の比を見ない所である。

昭和三年攝政宮殿下行啓記念事業として公園路改築の工を起し（園内舊御便殿注連繩柱前より蜿蜒多聞院下に至る道路）同年竣功したものである、其の他に陸橋及兒童遊園地及市内義俠家の手に依つて成された廣場等林間公園としての設備を漸次整へるに至つたのである。

尚同公園内には陸軍墓地及頼家諸先生の墓所、頼山陽文徳殿、故早速大藏大臣銅像があり又故加藤元帥銅像も建設せられて居る。

江波公園は市内江波町に在り其の面積三萬四百餘平方米であつて全山古松鬱茂し、殊に三方を海に

繞らし

山嶺の

眺望最

も爽快

を極め

東は廣

島港及

比治山

を展望

し、西

南は風

光明媚

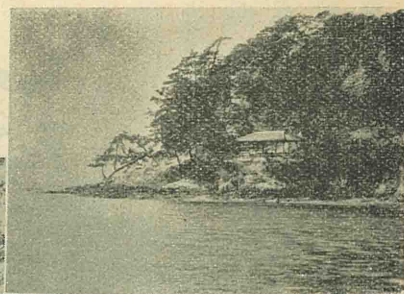
なる廣

島灣に

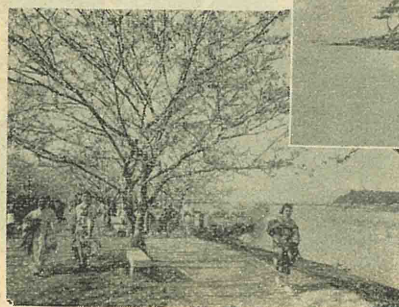
臨んで



比治山公園



江波公園



大芝公園

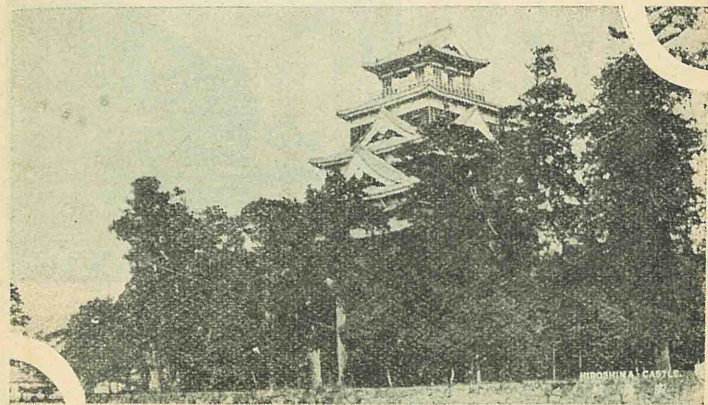


安藝の小富士、繪の島、辨天島、嚴島等烟波の間に縹渺し近く白鷗の波に戯れるの風情に至つては到底筆舌には現し難いものがあるのである。

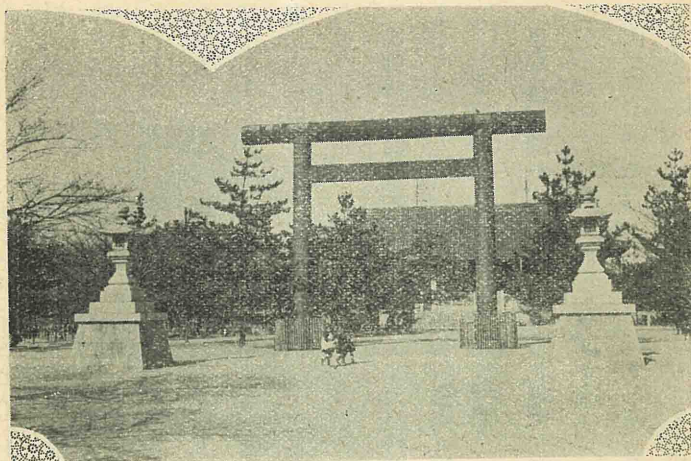
大芝公園は市内三篠本町の東端太田川の清流に沿ふ堤防數町の間に在つて其の面積三萬三千七百平方米にして櫻花の候を以て克く知られて居る。

## 史蹟名勝

**大本營址** 日清戰役の際、明治二十七年九月十五日畏くも大森を此の地に進めさせ給ひし時行在所に充てさせ給ひ翌年四月二十七日迄萬機を統べさせ給ひし聖蹟にして舊廣島城本丸址即ち第五師團司令部であつた建物を其の儘に御利用あらせられ其の調度の御質素なることは拜觀者をして襟を正さしめ感激に咽ばしむるものがある。



廣島城址



舊御便殿

現在廣島縣の管理に屬し監視警護を嚴重にして一般人に拜觀を許して居る。

里程は廣島驛より約二千五百米である。

**廣島城址** 鯉城、在間城、當磨城、石黒城等の別稱があり天正文祿の際山陽、山陰兩道九箇國の領主毛利右馬頭輝元の築く所である、天正十七年四月輝元より二宮太郎右衛門尉就辰に築城總奉行を命じて董役せしめ同月十五日「鋤初の式」を行ひ天正十九年四月牙城先づ成り輝元高田郡吉田より宗族重臣を隨へて城に入り慶長四年正月十四日竣工の賀儀を行つたのである。

現在に於て舊態を存するものは天守閣と城廓の一部のみとなつて居る、天守閣は五層にして東西二十二米、南北十六米、高さ三十三米巍然として冲天に聳えて居る。

**比治山舊御便殿** 明治二十七年日清戰役の際九月



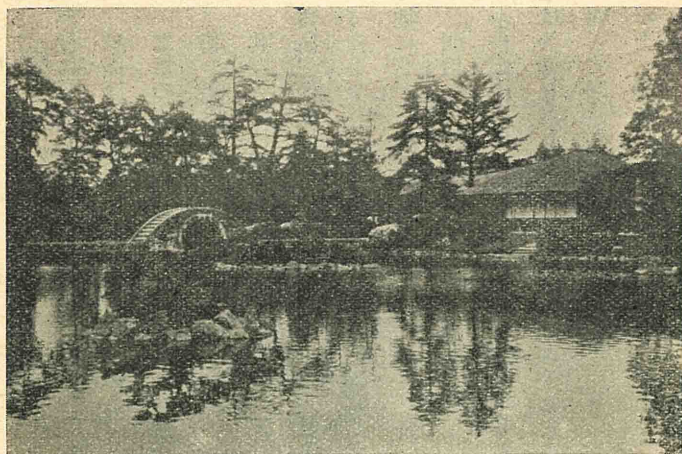
十五日明治大帝大葬を本市に進め給ひ、十月十五日臨時第七回帝國議會を廣島に召集し、西練兵場に假議事堂を建設せられ十月十八日車駕親臨して開院の式を挙げさせ給ひし時御便殿に充てさせられし御建物である。

翌年平和克復の後、本市は永久記念の爲之が拂下げを請ひ、同四十二年十月地を此處に卜して奉遷したものである、御建物は桁行二十米四五、梁行九米〇九であつて本市は之に桁行三十二米七二、梁行十二米七二用材梅白木の上覆建物を造營し奉安したのである、殿前の大華表は明治大帝御大葬の時、東京市青山齋場殿に建てられ大正二年二月東京市に下賜せられたものを本市に譲受けて此處に建立したものである。

**御即位大典記念館** 大正四年大正天皇御即位大典の禮を挙げさせ給ふや、本市は國家最高の典儀を永遠に記念する爲、大正七年比治山公園に繪馬堂式大記念館を建立し、大祭祝日等の際市民の遙拜所として居る。

**泉邸（縮景園）** 市内上流川町の北端に在つて、舊藩主淺野家の別邸である、元和五年淺野長晟入國の翌年造成したもので別稱を泉邸と謂ふ。

園景の全部を支那西湖に模したりと謂ふので縮景園の名があるのである、面積三萬九千六百六十九平方米であつて、奇石珍木配置の巧妙なこと、五歩にして其の趣を異にし、十歩にして其の景を移し



泉 邸（縮 景 園）

閑雅幽邃なること宛然仙郷に遊ぶの感がある。

園内の大書院を清風館と言ふ。

明治二十七年車駕行幸あらせ給ひてより屢々高貴の方を御迎へ申した所である。

尙園の西南隅に觀古館あり淺野家の家寶を陳列し

て一般の觀覽に供して居る。

里程は廣島驛より九百八十二米あり。

**明治天皇御飲料の井泉** 縮景園内にあり、明治二十七八年戰役の際、駐輦八箇月の間日常供御の清水を此の井泉より採らせられたものである。

**饒津神社** 市内二葉の里二葉山麓に在り、天保六年安藝守淺野齊肅祖先追孝の意を以て造營せられしものにして、太祖淺野長政夫妻及幸長、長晟公を祀る、境内敷地二萬一千八百八十八平方米あり、結構宏莊にして西に神田川の清流を控へ背後に綠樹鬱蒼た



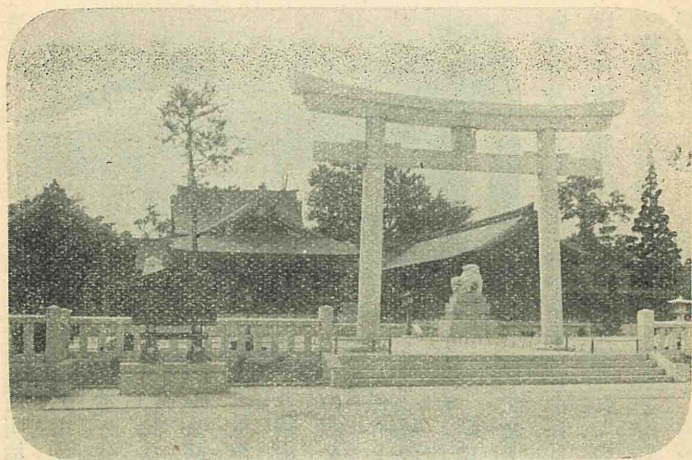
る二葉山を負ひ頗る雅致に富む明治五年二月社格を縣社に列せられて居る。

里程は廣島驛より約千三百米である。

**二葉の里** 大須賀町の西北隅に在り現在は町名を二葉の里と稱ふ。

其の大半は饒津神社の境内にして、北は二葉山を負ひ、西南は神田川の清流を控へ、古松老杉鬱茂して枝を交へ、梅櫻楓樹亦其の間を點綴して幽閑の風趣に富んで居る。

明治七年九月公園地となつたが、同三十一年八月本市が比治山、江波の兩公園を新設するに及んで縣は公園を廢して饒津神社の境内地としたのである、而して四季の遊客常に絶えず艶陽四月の候には遊覽の士女殊に多く、又初秋萩殊に名があり日夜遊客の絶える間のない状態である。



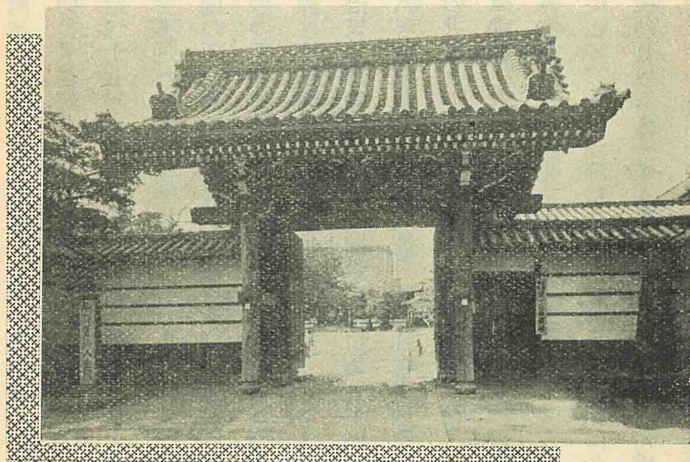
廣島護國神社

尙此の外に太宰原天満宮及明星院、鶴羽根神社等がある。里程は廣島驛より約千三百米である。  
**宇品島** 現在に於ては元宇品町となつて居るが、舊時は安藝郡仁保島村に屬し、宇品築港の後、明治三十七年十月本市に編入したものである、全島老樹繁茂鬱蒼し稀有の古代原始林である、島脊に觀音院があり眺望絶佳である。

**國泰寺** 市内小町に在り、宗派は曹洞宗にして僧惠瓊の開基に係り文祿年間朝鮮木を以て建立せりと謂ふ、後三度の祝融に遇ひ舊態は存せざるも尙結構壯大なるものがある。境内に豐國神社並豊公遺髮の塔及淺野侯數代の墓標、赤穂義士大石良雄の室石東氏及大石大三郎の各墓石がある。

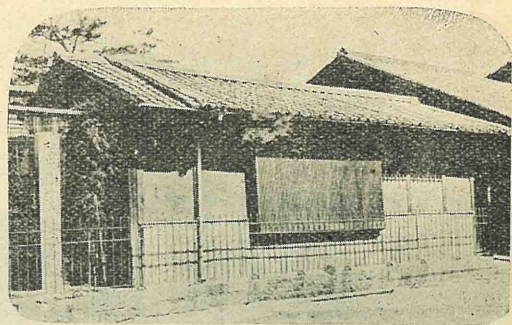
寺内に天然記念物として指定されたる樟三樹あり里程は廣島驛より約二千七百五十米あり。

**廣島護國神社** は現在西練兵場西南に在り、神靈



國泰寺





居 舊 陽 山 頼

は明治維新より明治十年戊申の役に至る迄の皇國の爲め獻身したる七十八柱の英靈及明治十年以後幾多の戦役事變に際し護國の精魂と化したる三千餘柱の英靈を合祀して居る社殿の結構近郊に其の比なく神苑は太田川の清流に臨み老松灌木を以て蔽ひ神嚴なる小公園化せしめんとして居る。

里程は廣島驛より約二千三百米である。

**頼山陽の舊居** 市内袋町に在り、一世を指導し維新回天の大業の源を成したる「日本外史」を著述せられた居室等當時のまゝを保存して居る。

里程は廣島驛より約二千七百三十米である。

**頼山陽文徳殿** 比治山公園の山腹に在り、頼山陽先生百年祭を記念する爲に廣島市單獨の事業として計畫し山陽文徳殿建設翼賛

會の努力により完成、昭和九年十月十五日の完工である、殿内には縣下出身の青年彫刻家、富樫政人氏の丹精に成る先生の聖像が安置されてある、毎年一回有志によりて祭典が行はれる。

#### 觀喜松

山陽文徳殿の境内に在り、樹齡千年の老松、此の地は元安養院觀喜寺の在りし地である、取り残されたる老木に昔の名残りを止めて名利の遺跡を物語つて居る。

#### 東照宮

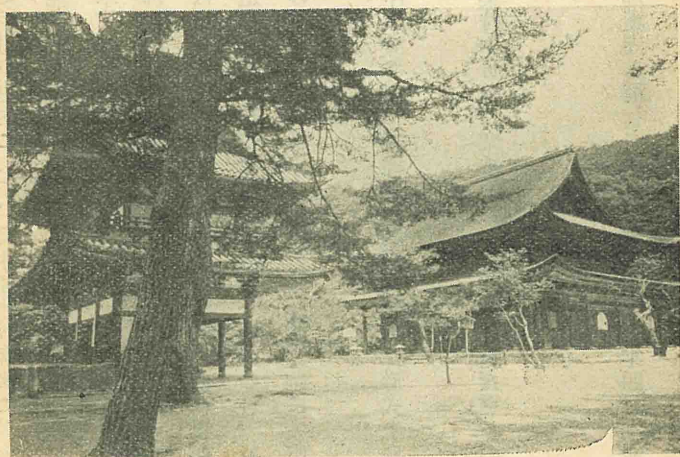
市内尾長山の中腹に在り、天保年中藩主淺野光晟の創建に係り、徳川家康の靈を祀るところである、境域五千三百平方米あつて社殿は南面し石階五十一段ある社殿の結構壯麗を極め往時は祭禮頗る盛大であつたと謂ふ。

石階の下參道の兩側に櫻花の並木があり陽春の候には賞遊を試る者絶間が無い。

里程は廣島驛より約千九百十米である。

#### 不動院

市内牛田町太田川左岸に在つて、足利尊氏が諸國に建てた安國寺の一にして、僧惠瓊が殿堂方丈、書院、厨庫等を建てて之を再興したものである



院 動 不



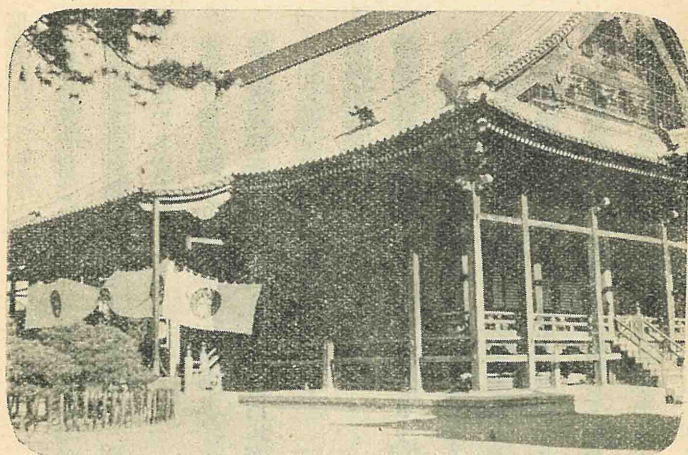
宗派は古義眞言宗仁和寺の末寺であり、其の金堂は天文年間の建立にして、天井畫龍の落款に、「天文庚子冬十月日僧永怡筆」とあり國寶となつて居る、純乎たる唐様禪宗建築重層入母屋造にして、全體は低き三和土の壇上に立ち、軒は上下共に二重扇垂木、組物上層は三手先の詰組、下層は三斗組、梁間五間の内正面一間開放となつて居ることは禪宗の佛殿としては珍らしく、四面には棧唐土と華燈窓とを設け、内部は土間、中央に須彌壇がある、天井は中央鏡天井にして、永怡の天人、龍の畫がある。其の他は總て化粧屋根裏を露出し、其の自由な構造に大に見るべきものがある。内部の柱、虹梁肘木、太瓶束等總て極彩色を用ひ、此の建物には後世の補修多分に加はつて居るけれども、確に室町時代禪宗建築の傑作の一に數えられる。

本尊藥師如來坐像は國寶であつて藤原時代典型的の作品である、梵鐘は（銅製）一には形式上は普通の朝鮮鐵にして何れも國寶に指定せられて居る。

太田川の歸帆を眺め春は櫻、夏は瀧、秋は茸狩、紅葉狩一日の行樂地として賽客跡を絶たざるの風景である。

里程は廣島驛より約三千里。

**本派本願寺廣島別院** 市内寺町に在り、元は龍原山佛護寺と稱して居たが明治四十一年四月本派本願寺廣島別院と改めたものである。



本派本願寺廣島別院

その本堂は文久二年再建のものにして桁行二十間餘、梁行十八間餘であつて市内寺院中第一のものであつて、眞宗安藝門徒の大本山として約八萬の善男善女が讃仰の本として居る。

## 官公衙其の他

**廣島縣廳** 明治十一年建築したもので市内水主町に在り構内廣く縣會議事堂、武德殿及縣立廣島病院等相隣接し名園與樂園は其の裏にあつて春季に最も佳し。

里程は廣島驛より約三千二百七十米あり。

**廣島控訴院** 市内小町に在り、明治十九年五月設置せられたもので其の管轄區域は岡山、山口、廣島、鳥取、島根、愛媛の六縣であり管内に地方裁判所六



區裁判所三十九ある。

里程は廣島驛より約二千七百三十米ある。

**廣島地方裁判所** 市内三川町に在り、明治十四年の建築にして其の管轄區域は廣島縣一圓にして、吳、尾道に各支部がある。

里程は廣島驛より約二千三百米あり。

**廣島區裁判所** 廣島地方裁判所構内に在り、其の管轄區域は廣島市及佐伯、安佐、山縣、安藝各郡の本市に接せる一部を直轄して居る。

**廣島刑務所** 市内吉島町に在り。

**廣島文理科大学** 市内東千田町に在り、昭和四年四月の開校にして、文科、理科に分れて居る。

尙附屬圖書館及南隣して博物館がある。

里程は廣島驛より約四千六百六十米あり。

**廣島高等師範學校** 市内東千田町に在り、明治三十五年の開校にして文科、理科、教育科に分れ構内に附屬中學校、同小學校を併置して居る。

里程は廣島驛より約四千四百四十米ある。

**廣島高等工業學校** 市内南千田町に在り、大正九年一月の開校にして、電氣、應用化學、機械、釀

造の四科に分れて居る。

里程は廣島驛より約四千八百米である。

**廣島高等學校** 市内翠町に在り、大正十三年十二月の開校にして、文科、理科に分れ、其の規模最も大なるものがある。

里程は廣島驛より約二千八百八十米である。

**廣島縣女子專門學校** 市内宇品町に在り、昭和十年四月開設せられたものである。

**廣島遞信局** 市内基町に在り、昭和七年三月起工同八年四月竣功し總經費四十四萬圓で白色四階建近代式建築物である。

里程は廣島驛より約千二百米である。

**廣島郵便局** 市内細工町に在り、本市に郵便局（初めは郵便役所と稱して居た）を設けられたのは明治四年十二月であつて初めは市内平田屋町に在つたのを同二十六年四月現在の地に移轉せられたものである。

**廣島驛前郵便局** 市内大須賀町に在り、廣島驛に隣接して居る。

**宇品郵便局** 市内宇品町に在り、明治二十七年八月設置せられたものである。

**廣島鐵道郵便局** 市内大須賀町に在り。



**廣島電話局** 市内下中町に在り、明治三十四年二月廣島郵便局内に於て電話交換を開始せられたるに始まり後現在の地に移轉し廳舎も新築せられ名稱も亦廣島電話局と改められたのである。

**廣島貯金支局** 遞信當局に於ては昭和十年度に於て本市に貯金支局建設のことを決定せられ之が建設敷地も千田町にして市内中央部に昭和十一年六月より起工し近代建築様式の粹を集めたるものにして廣島、岡山、鳥取三縣下の貯金事務を管轄するのである。

**廣島鐵道局** 鐵道局本廳舎の建設せられる迄假廳舎を新築設置せられ昭和十年八月より開局せられて居る、之が管轄區域は東は山陽本線明石驛より西は下關驛迄、山陰線は石見益田以南西、四國の全線及關門及宇高連絡船に屬する區域である、假廳舎は市内宇品町に在り省線宇品驛より約四百米の地點である。

**廣島驛** 市内大須賀町に在り、明治二十七年山陽鐵道株式會社廣島驛として設立せられたものであるが、現在の廳舎は大正十一年八月工費五十二萬餘圓を以て建築せられたものである。

**横川驛** 市内横川町に在り。

**已斐驛** 市内已斐町に在り、本市西玄關口として重きを成して居る。隣接して宮島線電車西廣島驛がある。

**省營バス廣島自動車所** 市内三篠本町一丁目に在り。

**廣島稅務監督局** 市内八丁堀に在り、廣島、岡山、鳥取、山口、愛媛六縣下の稅務行政を管轄して居るのである。

**廣島稅務署** 市内八丁堀に在り。

**廣島地方專賣局** 市内皆實町に在り、現在職工數九百七十八で一箇年間（昭和十一年度）の製造高は刻煙草百十九萬五千二疋、兩切煙草二十五億三千五百萬本にして此の價額二千三百七十萬八千六百六十二圓となつて居る。

**神戸稅關廣島出張所** 市内宇品町に在り。

**農林省岡山米穀事務所廣島出張所** 昭和十一年四月一日市内大洲町に建設せられたり。

**廣島營林署** 市内八丁堀に在り。

**廣島縣工業、同醸造試驗場** 市内東白島町に在り。

**廣島水産試驗場草津支場** 市内草津南町に在り。

**廣島商工會議所** 市内猿樂町元安川畔に在り。

**廣島縣產業獎勵館** 市内猿樂町元安川畔に在り、本市商工業の指導及商品陳列裝飾等の展示並幹旋等に盡瘁して居る、一箇年間（昭和十一年度）の開館日數三百五十九日、展示及即賣出品點數一萬七千五百十九點、之が縦覽人員三十三萬九千四百九十七人、一日平均九百三十一人が入場して居る。



廣島縣病院 市内水主町に在り。  
日本赤十字社廣島支部病院 市内千田町二丁目に在り。  
廣島中央放送局 市内上流川町に在り。

廣島市立浅野図書館  
S. 44年2月 日  
H. 1734

H. 302.1  
H. 73  
14

禁

昭和十四年三月廿五日印刷  
昭和十四年三月卅一日發行

(非賣品)

廣島市役所

印刷者 廣島市大手町七丁目一番地 増田計雄

印刷所 廣島市大手町七丁目一番地 株式會社 増田兄弟活版所

電話中三三・五六三番

昭和十四年二月二日浅野図書館に設置奉換

廣島市立浅野図書館  
No. 4501-22  
文書館所蔵









廣島局區内廣島市役所  
廣島市史編修委員會

昭和二十二年三月